

## シラバス参照[2026年度／数学科教育演習(M2-2)(高木)／高木 悟]

授業情報			
開講年度	2026年度	開講箇所	大学院教育学研究科
科目名	数学科教育演習(M2-2)(高木)		
担当教員	高木 悟		
学期曜日時限	秋学期 01:水6時限		
科目区分	演習(数学教育)	配当年次	2年以上
使用教室		キャンパス	早稲田
科目キー	371E210030	科目クラスコード	02
授業で使用する言語	日本語		
授業方法区分	【対面】ハイブリッド(対面回数半数以上)		
コース・コード	EDUX682S		
大分野名称	教育学		
中分野名称	教育学		
小分野名称	その他		
レベル	修士レベル	授業形態	演習／ゼミ
単位数	2		

シラバス情報	
授業概要	春学期の「数学科教育演習(M2-1)」に続き、ファジ理論の研究とその応用についての演習を行なう。演習では、学術論文の講読や実践研究を行なうとともに、関連する学会などへの論文発表の指導も行なう。対面(zoom中継あり)とオンライン(zoomのリアルタイム形式)を併用する。
授業の到達目標	ファジ理論を応用した教育情報分析や近似推論を応用した教育評価システムに関して研究する準備ができる。関連する学会などで論文発表の準備ができる。
事前・事後学習の内容	【事前学習】 次回の学習範囲を予習し、特に自分の発表担当の箇所はより深く理解するよう努める。 【事後学習】 扱った単元を復習し、関連する問題等があれば解いて理解を深める。 毎回合計で4時間程度かかると想定される。
授業計画	#1～#14. ファジ理論を応用した教育情報分析・教育評価システムに関する演習
教科書	受講者と相談して決める。
参考文献	「ファジ理論 基礎と応用」 山下元監修 瀧澤武信編著 共立出版 「ラフ集合と感性」 森典彦他著 海文堂出版 「Rough Sets: Theoretical Aspects Of Reasoning About Data」 Z. Pawlak著 Springer
成績評価方法	割合 評価基準 平常点評価: 100% 発表・発表の準備・討論の態度などで評価する。